



平成31年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年7月31日

上場会社名 株式会社ドリコム

上場取引所 東

コード番号 3793 URL <http://www.drecom.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 内藤 裕紀

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 後藤 英紀

TEL 03-6682-5700

四半期報告書提出予定日 平成30年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	2,864	11.4	417		512		504	
30年3月期第1四半期	2,572	46.9	34	85.0	17	92.1	4	

(注) 包括利益 31年3月期第1四半期 508百万円 (%) 30年3月期第1四半期 1百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	17.85	
30年3月期第1四半期	0.14	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年3月期第1四半期	7,820	2,767	32.1	88.83
30年3月期	9,097	3,261	33.2	106.74

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 2,513百万円 30年3月期 3,017百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		0.00		0.00	0.00
31年3月期					
31年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,900	4.9	550		750		750		26.52

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期1Q	28,742,000 株	30年3月期	28,742,000 株
期末自己株式数	31年3月期1Q	466,466 株	30年3月期	466,466 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期1Q	28,275,534 株	30年3月期1Q	28,275,548 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

当社は平成30年7月31日(火)に機関投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する四半期決算説明会資料については開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間より、従来「コンテンツサービス」としていた報告セグメントの名称を「エンターテインメントサービス」に変更しております。この変更は、セグメント名称の変更であり、セグメント情報に与える影響はありません。

当社グループが属するインターネットサービス業界を取り巻く環境は急速な変化を続けております。平成29年通信利用動向調査によると、平成29年(2017)末時点で、スマートフォンを保有する世帯の割合は75.1%に達し、初めて固定電話、パソコンを保有する世帯の割合を上回りました。スマートフォンは現在の日常生活において最も主要な情報通信機器と位置付けられる状況になっております。また、平成29年(2017)末時点で、スマートフォンを使用してインターネットを利用する人の割合は59.7%となり、52.5%のPCと並び、スマートフォンはインターネット利用における主要なデバイスと位置付けられています。このように、スマートフォンの急速な普及とインターネットデバイスとしての重要性が増していることを受け、インターネットサービス業界では、スマートフォン向けの新規サービスが次々と創出され、市場拡大と競争の激化が続いております。

こうした環境の下、当社グループはスマートフォン向けサービスの提供を主な事業と位置付け、既存サービスの拡充および新規サービスの開発に注力しております。主力事業のソーシャルゲーム事業では、IPゲームに焦点を当てた戦略の下、新規IPゲームの開発・運用を通じた事業拡大に取り組んでおり、現在8本のIPゲームアプリを運用しております。また、株式会社バンダイナムコエンターテインメントとの合弁会社の提供する新ブラウザゲームサービス「enza」も4月にサービス提供が始まり、新たなゲーム市場の開拓に向けた取り組みも本格化いたしました。広告メディア事業では、広告代理事業の他、次世代の主力事業創出を目的とした新規サービスの開発・運用にも取り組みました。

業績については、運用ゲームアプリ数の増加と、新規IPゲームアプリ開発の進捗に伴う売上が計上されたことから、売上高は2,864,996千円(前年同期比11.4%増)と前期比で伸長いたしました。利益面につきましては、運用ゲームアプリ数が増加したこと、及び多くのゲームアプリで効率的な運用体制への移行の途上にあることから、運用費が前年比で増加し、利益幅を縮小させることとなりました。また、売上拡大を目的に導入を進めている既存ゲームアプリの大型改修投資を、保守的に研究開発費として処理いたしました。以上の結果から、営業損失417,520千円(前年同期は営業利益34,843千円)、経常損失512,875千円(前年同期は経常利益17,390千円)、親会社株主に帰属する四半期当期純損失504,632千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期当期純損失4,073千円)となりました。

今後につきましては、新ブラウザゲームサービス「enza」の拡大と、既存ゲームアプリの運用費用の最適化を通じた収益性向上の2つを最優先課題として、優先的に経営資源を投入し、事業拡大に取り組んでまいります。

エンターテインメントサービス

当事業セグメントはゲームの開発・運営が主要事業となっており、他社IPゲーム及びゲームプラットフォーム並びにオリジナルIPゲームの開発・運営を行っております。

他社IPゲームにつきましては、2014年5月にリリースされたIPゲームアプリで、4周年を迎えた5月に実施した周年イベントが好評を博し、昨年末に実施した大型バージョンアップもあり、リリースからの経年を感じさせない拡大基調をみせました。2016年11月以降にリリースしたIPゲームアプリについては、既存ユーザーとのエンゲージメントを高めるリアルイベントの実施や、他社コンテンツとのコラボレーションイベント等を実施し、売上拡大に注力しました。

オリジナルゲームについては、既存ユーザーの満足度維持・向上に焦点を当てたイベント施策に注力し売上水準を維持いたしました。また、運用とあわせて新規IPゲームの開発進捗に伴う売上や新ブラウザゲームサービス「enza」に関連する売上も計上されました。以上の結果、セグメント売上高は2,643,256千円(前年同期比14.5%増)となりました。

利益につきましては、多くのIPゲームアプリで開発・運用の並走時期にあたることから運用費が増加し、利益貢献は限定的となりました。また、売上拡大を目指し導入を進めている既存IPゲームアプリの大型改修に際して、当該投資を保守的に研究開発費として処理いたしました。以上の結果から、セグメント損失は368,500千円(前年同期はセグメント利益118,614千円)となりました。

なお、当社が配信元である「ダービースタリオン マスターズ」及び「みんゴル」(アジア版)を除く運用中のIPゲームアプリの売上高につきましては、配信会社からの一定の比率に応じた売上分配を得るかたちとなっており、売上への影響は相対的に小さいものの、支払手数料が無い場合、利益に与える影響が大きくなります。

広告メディアサービス

広告メディアサービスでは、広告代理業務の他、次世代の主力事業創出を目的とした取り組みの一環である『DRIP (Drecom Invention Project)』のもと、当社の有するインターネットサービスの知見を活かした新規サービスを試験的に立ち上げ、事業化に向けた試行を重ねました。

しかしながら、主要サービスの多くが事業開発段階にあることから、セグメント売上高は221,739千円(前年同期比15.9%減)、セグメント損失は49,020千円(前年同期はセグメント損失83,771千円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結累計期間末における流動資産は4,246,161千円となり、前連結会計年度末に比べ1,843,617千円減少いたしました。これは主に現金及び預金が1,519,398千円、売掛金が327,628千円、仕掛品が149,385千円減少したことによるものであります。固定資産は3,574,137千円となり、前連結会計年度末に比べ566,420千円増加いたしました。これは主にソフトウェアが370,533千円、関係会社長期貸付金が539,000千円増加し、ソフトウェア仮勘定が311,648千円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は7,820,299千円となりました。

(負債)

当第1四半期連結累計期間末における流動負債は2,615,891千円となり、前連結会計年度末に比べ623,906千円減少いたしました。これは主に短期借入金が290,000千円、未払金が124,006千円、未払法人税等が81,591千円減少したことによるものであります。固定負債は2,436,575千円となり、前連結会計年度末に比べ159,859千円減少いたしました。これは主に長期借入金が156,667千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、5,052,466千円となりました。

(純資産)

当第1四半期連結累計期間末における純資産合計は2,767,832千円となり、前連結会計年度末に比べ493,431千円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純損失504,632千円を計上したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は32.1%(前連結会計年度末は33.2%)となりました。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,177,762	1,658,364
売掛金	1,960,899	1,633,270
仕掛品	360,014	210,629
その他	591,102	743,897
流動資産合計	6,089,778	4,246,161
固定資産		
有形固定資産		
建物	327,055	328,549
減価償却累計額	△124,935	△131,673
建物(純額)	202,120	196,876
工具、器具及び備品	70,674	72,924
減価償却累計額	△56,358	△57,997
工具、器具及び備品(純額)	14,316	14,926
リース資産	97,136	97,136
減価償却累計額	△13,256	△18,113
リース資産(純額)	83,879	79,023
有形固定資産合計	300,316	290,826
無形固定資産		
ソフトウェア	374,125	744,659
ソフトウェア仮勘定	642,705	331,056
無形固定資産合計	1,016,830	1,075,715
投資その他の資産		
投資有価証券	125,346	124,319
関係会社長期貸付金	490,000	1,029,000
繰延税金資産	303,572	347,580
その他	771,651	706,695
投資その他の資産合計	1,690,570	2,207,595
固定資産合計	3,007,717	3,574,137
資産合計	9,097,496	7,820,299

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	466,740	445,601
短期借入金	440,000	150,000
1年内返済予定の長期借入金	713,342	686,668
1年内償還予定の社債	102,000	102,000
未払金	923,720	799,714
未払法人税等	87,542	5,951
賞与引当金	110,923	48,575
その他	395,528	377,380
流動負債合計	3,239,797	2,615,891
固定負債		
長期借入金	2,096,331	1,939,664
社債	147,000	147,000
資産除去債務	101,479	101,616
その他	251,624	248,295
固定負債合計	2,596,435	2,436,575
負債合計	5,836,233	5,052,466
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,694,723	1,694,723
資本剰余金	1,957,830	1,957,830
利益剰余金	△484,743	△989,376
自己株式	△150,061	△150,061
株主資本合計	3,017,748	2,513,116
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	39	△83
為替換算調整勘定	266	△1,403
その他の包括利益累計額合計	305	△1,486
新株予約権	225,595	243,244
非支配株主持分	17,614	12,957
純資産合計	3,261,263	2,767,832
負債純資産合計	9,097,496	7,820,299

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	2,572,143	2,864,996
売上原価	1,773,319	2,501,747
売上総利益	798,824	363,248
販売費及び一般管理費	763,980	780,769
営業利益又は営業損失(△)	34,843	△417,520
営業外収益		
受取利息	77	2,334
受取分配金	27	73
投資事業組合運用益	3,040	-
その他	38	94
営業外収益合計	3,183	2,502
営業外費用		
支払利息	3,967	6,947
社債利息	-	589
持分法による投資損失	14,590	85,826
その他	2,078	4,493
営業外費用合計	20,636	97,857
経常利益又は経常損失(△)	17,390	△512,875
特別損失		
減損損失	-	24,032
特別損失合計	-	24,032
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	17,390	△536,907
法人税、住民税及び事業税	4,727	13,404
法人税等調整額	13,433	△43,954
法人税等合計	18,161	△30,549
四半期純損失(△)	△770	△506,357
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	3,302	△1,725
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△4,073	△504,632

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
四半期純損失(△)	△770	△506,357
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△412	△122
為替換算調整勘定	△330	△2,070
その他の包括利益合計	△742	△2,192
四半期包括利益	△1,513	△508,550
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△4,647	△506,424
非支配株主に係る四半期包括利益	3,134	△2,126

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	エンターテインメントサービス	広告メディアサービス	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,308,374	263,769	2,572,143	—	2,572,143
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,308,374	263,769	2,572,143	—	2,572,143
セグメント利益又はセグメント損失(△)	118,614	△83,771	34,843	—	34,843

II 当第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	エンターテインメントサービス	広告メディアサービス	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,643,256	221,739	2,864,996	—	2,864,996
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,643,256	221,739	2,864,996	—	2,864,996
セグメント損失(△)	△368,500	△49,020	△417,520	—	△417,520

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結累計期間より、従来「コンテンツサービス」としていた報告セグメントの名称を「エンターテインメントサービス」に変更しております。この変更は、セグメント名称の変更であり、セグメント情報に与える影響はありません。なお、前第1四半期連結累計期間の報告セグメントについても、変更後の名称で記載しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。